

平成20年度第1四半期（平成20年4月～6月）における運用環境について

1. 国内の景気動向について

日本経済につきましては、欧米主要金融機関への出資報道などによる世界的な金融不安の後退を背景に、当面は減速傾向が続きながらも、年後半にかけては、次第に緩やかな拡大基調へ推移するとの見方が広がりました。しかし、原油など国際商品市況の高騰による悪影響が波及し始めたことにより、企業部門では景況感が大幅に悪化した一方、家計部門では個人消費が低迷するなど、景気は減速感を一段と強めており、先行きにつきましても下振れ懸念が高まっております。

2. 海外の景気動向について

米国経済につきましては、米国のサブプライムローン(信用力の低い個人向け住宅ローン)問題に端を発する金融市場の混乱などから、深刻な景気後退は避けられないとの見方が根強かったものの、米国政府による減税や米連邦準備制度理事会(FRB)による利下げ、欧米主要金融機関の増資報道などが好感され、市場の混乱は徐々に沈静化の兆しが見え始めました。しかし、住宅市場の調整局面が継続しているほか、個人消費および設備投資の鈍化など実体経済の悪化にも歯止めがかからず、さらには国際商品市況の高騰によるインフレ懸念から、景気の低迷は長期化する様相を呈しております。

欧州経済につきましては、米国のサブプライムローン問題による金融市場の混乱が米国ほどではなかったものの、景気は緩やかに減速しております。こうしたなか、イギリスやスペインなどにおける住宅価格の下落など実体経済の悪化がみられるほか、史上最高値圏で推移するユーロ、世界的なインフレ懸念など、欧州経済を取り巻く環境は厳しさを増しております。

3. 運用資産の動向について

上記のとおり、平成20年度第1四半期（平成20年4月～6月）につきましては、米国経済を中心とする世界経済への過度な悲観論が後退しましたが、原油等の高騰を受けて世界的なインフレ懸念が台頭する運用環境となりました。こうしたもとで、4月は世界的な景気持ち直しへの期待感から国内外の株価が上昇しましたが、5月以降は景気の先行き不透明感の増大を背景に国内外の株式はともに下落し、特に外国株式の下げ幅が拡大しました。一方、債券市場につきましては、国内外ともに世界的なインフレに対する懸念から債券価格は下落（利回りは上昇）しました。外国為替市場につきましては、米国や欧州など主要国の利上げ観測を受けて円安基調で推移しました。

(注) 資産毎の「ベンチマーク・インデックスの推移」を4ページ目に掲載しておりますので、ご参照下さい。

平成20年度第1四半期における運用状況

○ 平成20年度第1四半期(平成20年4月～6月)のポートフォリオ別の運用状況

1 被保険者ポートフォリオ

平成20年度第1四半期(平成20年4月～6月)における被保険者及び待期者に係る資産の運用状況は、次表のとおり、平成20年6月末の時価総額は1,141億68百万円となり、第1四半期総合収益は14億51百万円となりました。また、修正総合利回りは1.31%となりました。

(単位:百万円、%)

資 産	平成19年度末 時価総額 ①	第1四半期保険料・ 国庫補助投下額②	計 ③(①+②)	平成20年6月末 時価総額 ④	時価総額 構成割合	第1四半期総合収益 ④-③	(参考) 修正総合 利 回 り
国内債券	80,207	710	80,917	80,612	70.6	-305	-0.39
国内株式	15,108	-2,368	12,741	14,019	12.3	1,278	9.78
外国債券	3,229	2,371	5,600	5,740	5.0	140	2.54
外国株式	9,200	3,849	13,049	13,418	11.8	369	2.81
短期資産	2,140	-1,731	409	378	0.3	-31	-11.53
合 計	109,884	2,832	112,716	114,168	100.0	1,451	1.31

- (注) 1. 「第1四半期保険料・国庫補助投下額②」では、受給権者ポートフォリオ等への繰入額が除かれています。
 2. 有価証券の保管手数料及び外貨流動性預金に係る為替差損益等は、短期資産で整理しています。
 3. 単位未満を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります(以下同じ)。

2 被保険者危険準備金ポートフォリオ

平成20年度第1四半期(平成20年4月～6月)における被保険者及び待期者に係る付利準備金及び調整準備金の運用状況は、次表のとおりとなっています。
(単位:千円、%)

区 分	資 産	平成19年度末 時価総額 ①	第1四半期繰入額②	計 ③(①+②)	平成20年6月末 時価総額 ④	第1四半期総合収益 ④-③	(参考) 修正総合 利 回 り
付利準備金	短期資産	54	91	145	559	414	0.14
調整準備金	短期資産	461,344	-1,560	459,784	460,484	699	0.15
合 計		461,399	-1,469	459,929	461,043	1,113	0.15

(注)「第1四半期繰入額②」では、被保険者ポートフォリオからの受入額が含まれ、受給権者危険準備金ポートフォリオへの繰入額が除かれています。

3 受給権者ポートフォリオ

平成20年度第1四半期(平成20年4月～6月)における受給権者に係る資産の運用状況は、次表のとおりとなっています。
(単位:千円、%)

資 産	平成19年度末 時価総額 ①	第1四半期繰入額 ②	計 ③(①+②)	平成20年6月末 時価総額 ④	第1四半期総合収益 ④-③	(参考) 修正総合 利 回 り
国内債券	954,826	265,095	1,219,922	1,202,976	-16,945	-1.67
短期資産	-8,426	40,726	32,300	32,316	16	0.06
合 計	946,401	305,821	1,252,222	1,235,293	-16,929	-1.63

(注) 1.「平成19年度末時価総額①」の短期資産のマイナス表示は、平成19年度決算に基づき、受給権者危険準備金ポートフォリオへの繰入を行ったためです。
2.「第1四半期繰入額②」では、被保険者ポートフォリオからの受入額が含まれています。

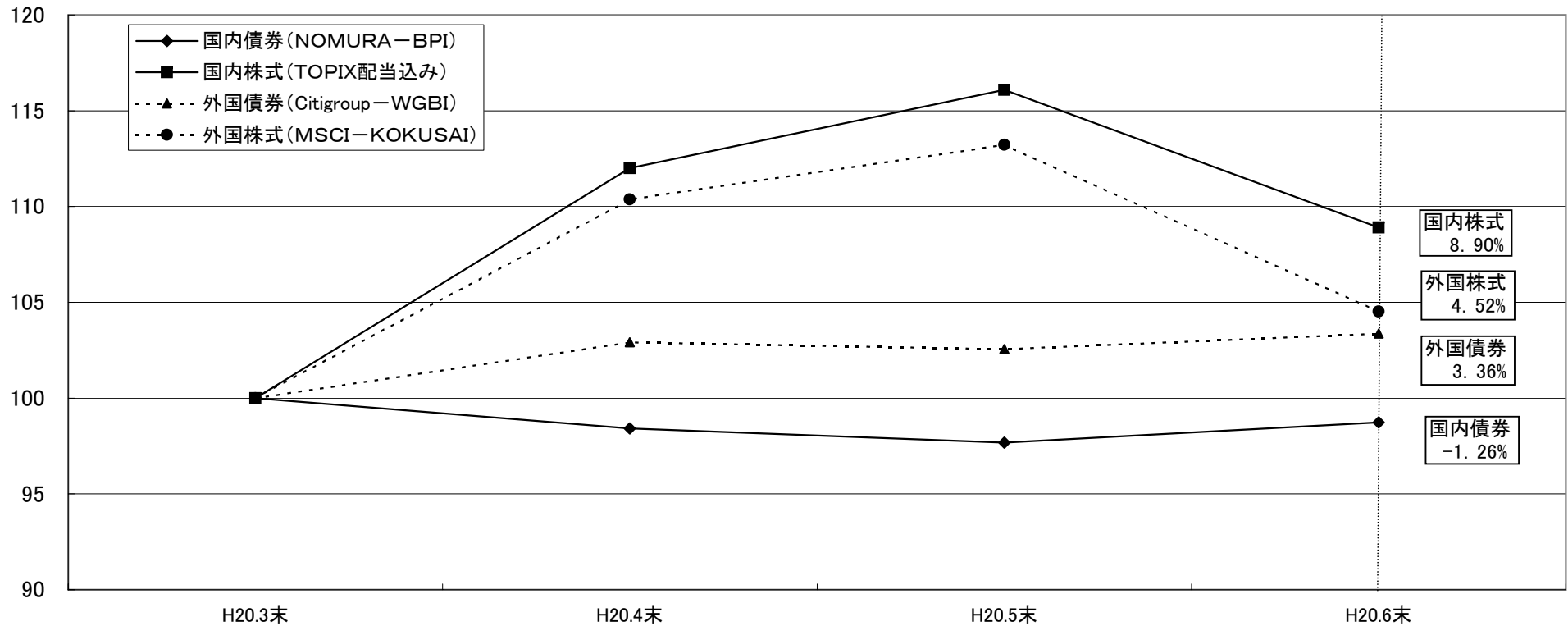
4 受給権者危険準備金ポートフォリオ

平成20年度第1四半期(平成20年4月～6月)における受給権者に係る調整準備金の運用状況は、次表のとおりとなっています。
(単位:千円、%)

区 分	資 産	平成19年度末 時価総額 ①	第1四半期繰入額②	計 ③(①+②)	平成20年6月末 時価総額 ④	第1四半期総合収益 ④-③	(参考) 修正総合 利 回 り
調整準備金	短期資産	164,121	12,397	176,517	176,745	227	0.15

(注)「第1四半期繰入額②」では、被保険者ポートフォリオ等からの受入額が含まれています。

ベンチマーク・インデックスの推移 (H20.3末=100)



国内株式	8.90%
外国株式	4.52%
外国債券	3.36%
国内債券	-1.26%

○運用環境

	平成20年3月末	平成20年6月末
国内債券(新発10年国債利回り)	1.274 %	1.590 %
(NOMURA-BPI総合)	312,047 ポイント	308,113 ポイント
国内株式(日経225)	12,525.54 円	13,481.38 円
(TOPIX配当込)	1,450.00 ポイント	1,579.09 ポイント
外国債券(米国10年国債利回り)	3.425 %	3.964 %
(Citigroup-WGBI)	338.08 ポイント	349.45 ポイント
外国株式(NYダウ)	12,262.89 ドル	11,350.01 ドル
(MSCI-KOKUSAI)	1,419.472 ポイント	1,483.695 ポイント
為替レート(対ドル)	99.53 円	106.01 円
(対ユーロ)	157.72 円	167.02 円

用語の説明

○ ポートフォリオ

性質が同じ資金をまとめて運用するための運用単位のこと(同義語 ファンド)。

○ 総合収益

利息、配当金や売買損益といった実現損益だけではなく、評価損益や未収収益を加味した収益のこと。

○ 修正総合利回り

総合収益を運用元本に時価の概念を加味した残高で割って算出した収益率のこと。運用成績の開示に広く用いられている。

修正総合利回り = (総合収益) ÷ (運用元本平均残高 + 前期末評価損益 + 前期末未収収益)

○ ベンチマーク・インデックス

各資産を代表する銘柄から構成される指標のこと。それぞれの資産を運用する基準として、基金が採用しているものである。

* NOMURA-BPI総合

野村証券金融経済研究所が作成している国内債券市場の指標。国内で発行された残存1年以上の固定利付債から構成される。国内債券市場の代表的な指標である。

* TOPIX(配当込)

東京証券取引所が作成している国内株式市場の指標。東証一部全上場銘柄から構成される。国内株式市場の代表的な指標である。

* Citigroup-WGBI(日本を除く)

シティグループが作成している外国債券市場の指標。主要先進国(除く日本)が発行する国債から構成される。外国債券市場の代表的な指標である。

* MSCI-KOKUSAI(配当込)

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社が作成している外国株式市場の指標。主要各国(除く日本)の証券取引所上場銘柄から構成される。外国株式市場の代表的な指標である。